



DataScientist Society

一般社団法人 データサイエンティスト協会 設立発表会資料

2013年7月16日

一般社団法人データサイエンティスト協会

1. 設立の背景
2. 一般社団法人データサイエンティスト協会の概要
3. 協会組織について



DataScientist Society

1. 設立の背景

設立の背景：ビッグデータへの注目

- センサーや通信機器の発達、インターネット/ネットサービスの普及により、昨今、データ量は急激に拡大の一步をたどっています。
- IT技術（データ蓄積技術、データの高速度処理技術、データ分析技術）の発達により、大量データが扱いやすくなったことで、ビッグデータに注目が集まっており、Data is King や Data is the New Oilなどとも言われています。

データ量の急激な増大（センサー/通信機器の発達、様々なネットサービスの普及など）

IT 技術の 発達	データ蓄積技術	・クラウド技術など、大量データをリーズナブルに蓄積する環境が整い、データの保存コストが低下傾向。
	データの高速度処理技術	・Hadoopなどの分散処理の技術により、大量データの処理が短時間で高速処理が可能に。
	データ分析技術	・機械学習に代表される大量データの高度なデータ解析に利用可能なアルゴリズムの開発・応用が進展。

大量データが扱いやすくなったことで、ビッグデータに注目が集まる
(Data is King / Data is the New Oil)

設立の背景：ビッグデータとデータサイエンティスト

- 日本にはビッグデータという言葉の流行直後に、データサイエンティストの概念が輸入されたため、ビッグデータという言葉との対で、その（ビッグ）データ分析の担い手としての意味合いが強くなっています。
- データ分析を行うためには、統計数理技術に関する学術的なバックグラウンドに加えて、大量データを効率よく扱うITスキルと、ビジネスインパクトを考慮した分析テーマ選定や施策への展開を行うためのビジネス知識が必要となります。
- 日本の多くの組織は、ITを業務コスト削減の守りのツールとして位置づけ、攻めのための利用をしてこなかったため、企業内に分析を行う部署が存在しておらず、前述の分析を行うスキル・知識を有した人材を育成する場が存在しませんでした。
- ビッグデータとデータ分析人材に注目が集まる中、企業はデータサイエンティストの獲得・育成（※1）に力を入れようとしています。しかし、そもそもデータサイエンティストの定義がない（※2）というのが現状です。

- ※1 McKinsey のレポート「Big data: The next frontier for innovation, competition, and productivity (2011年5月)」によると、米国では2018年までに高度なアナリティクス・スキルを持つ人材が14万～19万人不足するといわれています。国内のデータサイエンティストの数は、ニュースや各社のリリースなどから約1000人程度と推定されています。
(参照：日経コンピュータReport <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20130705/489452/?bpnet>)
- ※2 Harvard Business Reviewの2012年10月号の記事で、ハーバード・ビジネス・スクールのトーマス・H・ダベンポート氏は、データサイエンティストの定義がないことを指摘しており、採用には、まず定義から始めるべきと提言しています。

設立の背景：データサイエンティストの定義が不在

- データサイエンティストには明確な定義がなく、対応領域も広いことから、企業間や人材間でスキルセットのバラつきが多く、受託での分析業務の際や採用時など、期待役割とスキルセットのミスマッチが発生しているとの問題意識がありました。
- ミスマッチの結果、データ分析から想定した成果が得られない、あるいは経験や能力を十分に活かすことができないといった状況が頻発し、今後の企業のデータ活用やビッグデータ関連市場の健全な発展に影響を及ぼすとの懸念から、有志による協会設立の準備を開始しました。

定義の不在がもたらすもの

企業

(サービス受入側)

- ・発注前の段階で、プロジェクトのゴールや成果が見えにくい。
- ・複数社の検討段階において、技術レベル、人材能力の比較が困難。
- ・期待したとおりの人材かどうか不明瞭。

(サービス提供側)

- ・自社の現状レベルはどれくらいか。強み、弱みは何か。
～誰がどのようなスキルを保有しているのか。
どの程度の待遇とすべきか。
 - ・今後、誰をどのように育成していけばよいか。
- etc

個人

- ・データサイエンティストを目指すには、何をすればいいか。
 - ・自分のデータサイエンティストとしての現状レベルはどれくらいか。強み、弱みは何か。
- etc

期待役割と
スキルセットの
ミスマッチ



分析の
十分な効果が
生まれない/
データサイエン
ティストの
経験・能力が
活かせない



ビッグデータ関連
市場の健全な発展
に影響



DataScientist Society

2. データサイエンティスト協会の概要

一般社団法人 データサイエンティスト協会の概要

■ 団体名称

和文 : 一般社団法人 データサイエンティスト協会

英文 : The Japan DataScientist Society

URL : <http://www.datascientist.or.jp>

■ 設立日

2013年5月15日

■ 発起人

株式会社ブレインパッド
iAnalysis合同会社

代表取締役社長
代表・最高解析責任者

草野 隆史
倉橋 一成

■ 代表理事

株式会社ブレインパッド

代表取締役社長

草野 隆史

■ 顧問

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事

統計数理研究所長、総合研究大学院大学統計科学専攻 教授

樋口 知之

■ 所在地

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-2-5 KN五反田ビル6F

■ 連絡先

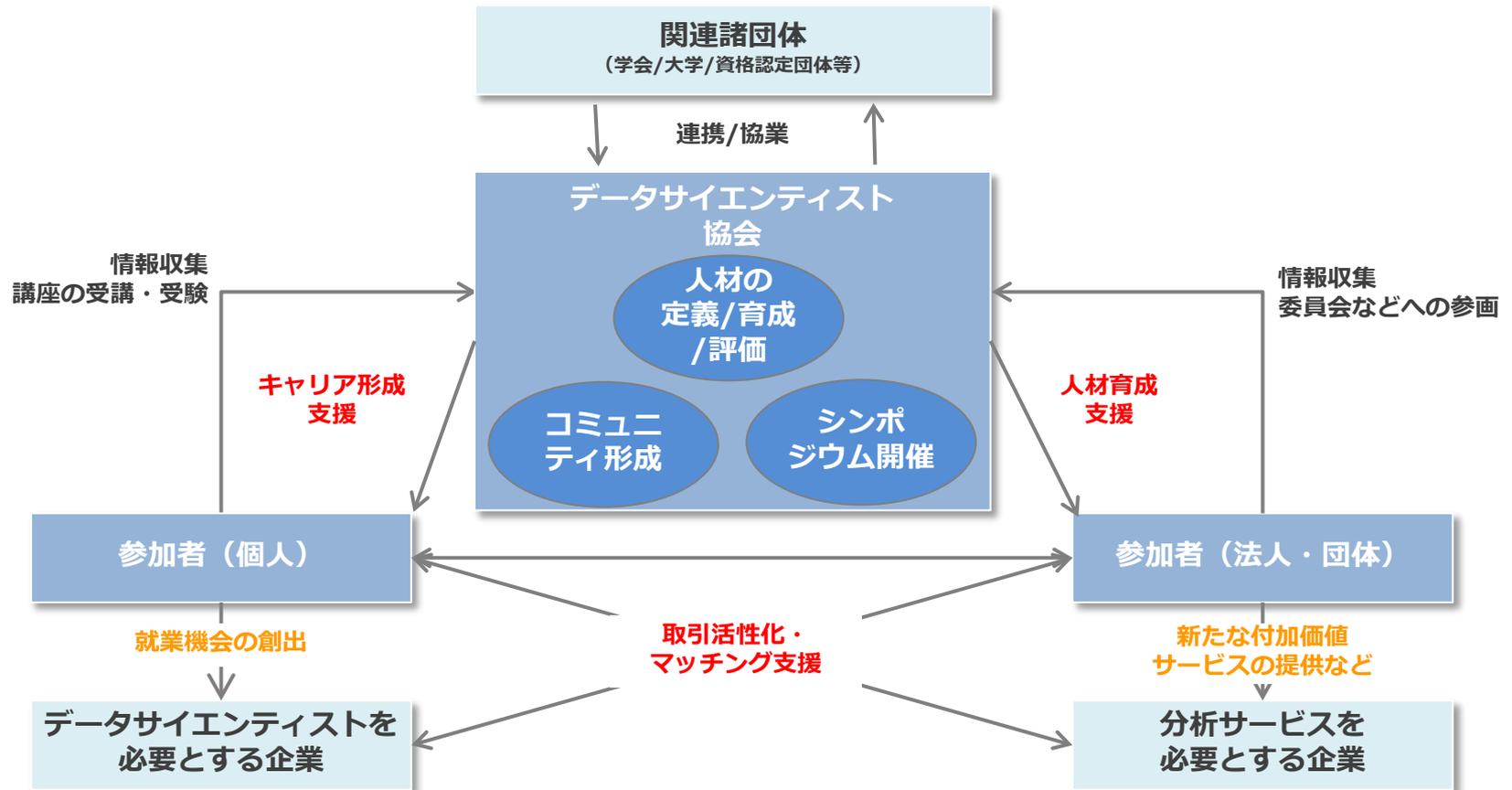
E-Mail : info@datascientist.or.jp

TEL : 03-5793-8470

FAX : 050-3153-1219

活動の目的と全体像イメージ

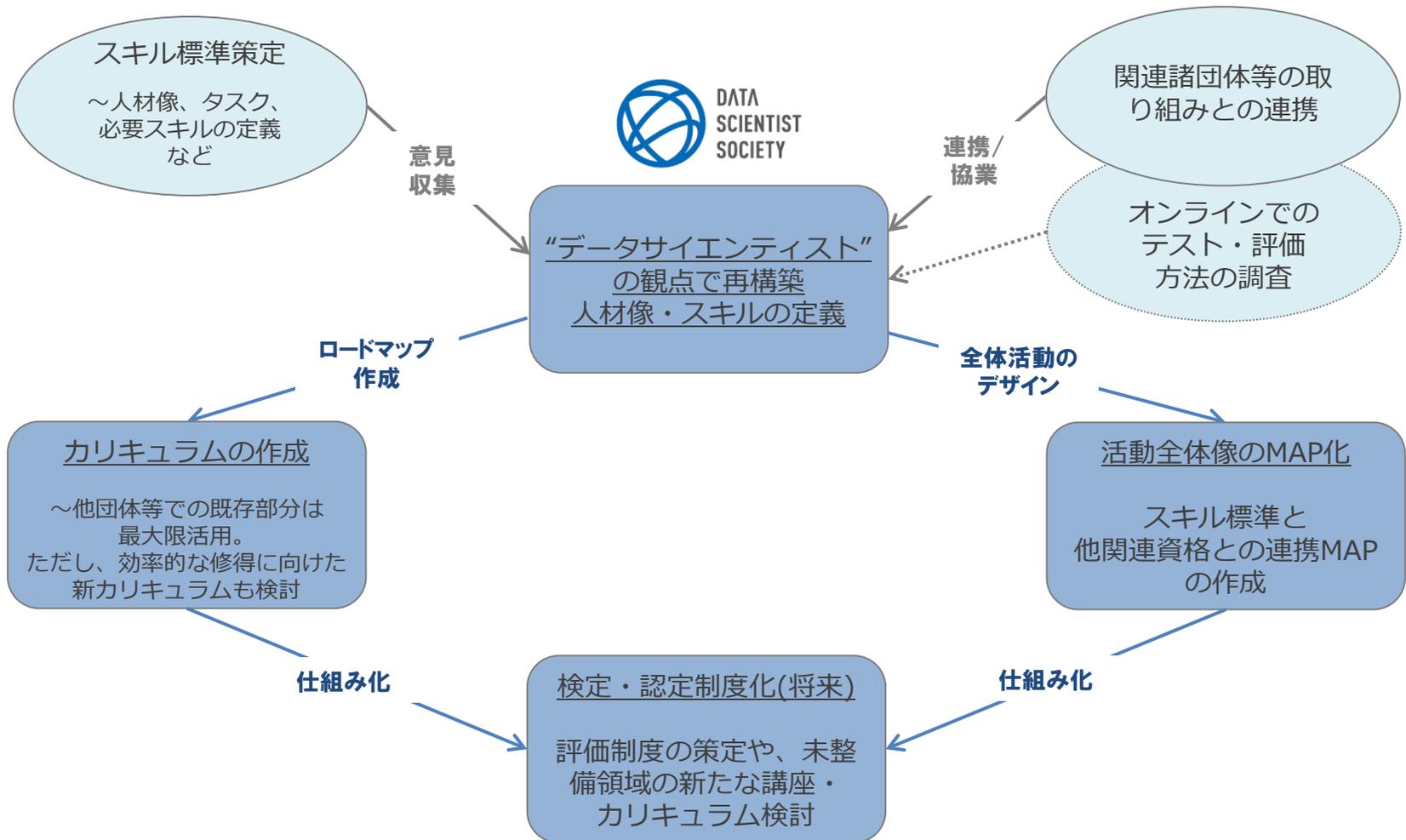
- 当協会では、データサイエンティストに必要とされるスキル・知識を定義し、データサイエンティストを育成するためのカリキュラム作成、及び、評価制度の構築などを行うことで、高度人材の育成と業界の健全な発展に貢献する啓蒙活動を行うことを目的とします。
- 企業を超えてデータ分析に関わる人材が交流し、議論・情報共有する場を提供することで、成長の機会を提供。新しい職業としての意見集約・発信の場を用意します。



■ 活動内容・・・定款に記載している主な活動

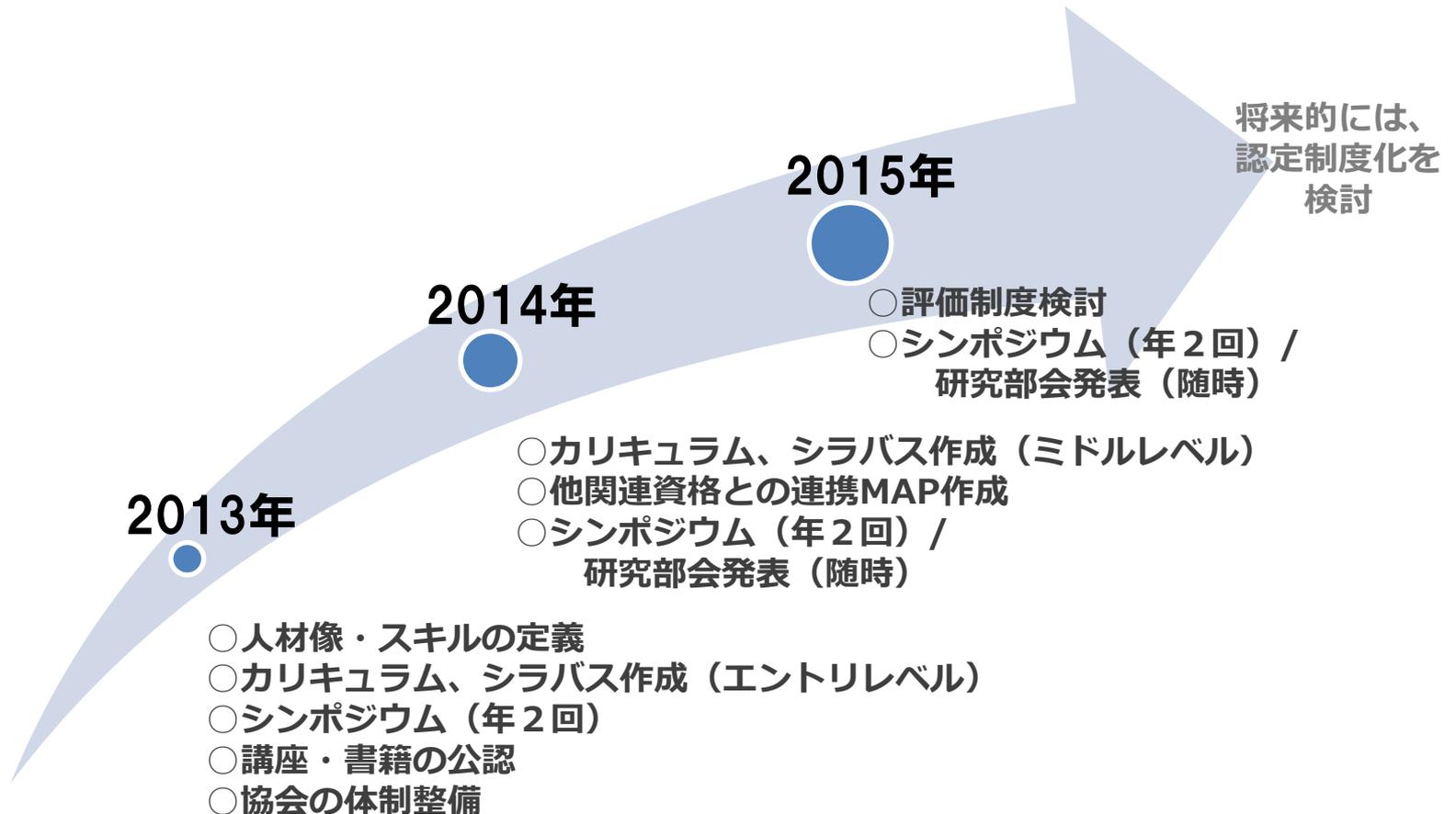
1. データサイエンティストに必要とされる技能（スキル）要件、知識・経験のレベル定義とその標準化の推進、ならびにその普及啓蒙活動
2. データサイエンティストの認定制度、資格検定制度等の企画、開催、運営
3. ベストプラクティスやデータサイエンスに関わる調査研究、および情報発信
4. データサイエンティスト育成のための教育活動
5. シンポジウム、研究会、講演会、講習会、講座、セミナー等の企画、開催、運営
6. ビジネス機会、就業機会創出のための各種活動
7. 国内外の関連諸団体等との活動に関する情報交換や連携・協力のための活動
8. 雑誌・書籍の企画、出版、販売、および音響・映像商品（音声データ、動画データ、その他各種メディア等）の企画、製造、販売
9. その他本法人の目的を達成するために必要な活動

活動概要 (案)



ロードマップ (案)

- 初年度は人材像・スキルの定義とカリキュラム策定（エントリレベル）などを行います。
- また、研究成果の公開や、データサイエンティスト同士の交流、意見集約の場としてシンポジウム等を定期的に行います。





DataScientist Society

3. 協会組織について

団体人事一覧（現状）

- 設立当初は、協会の立ち上げ準備を担当したブレインパッドのメンバーが理事、事務局長を務めます。
- 理事職・監事職については、協会の円滑な運営・推進を図る上で必要となる広い見識、公平性を有し、業界の発展、関係諸団体との連携、産学連携活動などの中心的な存在となれる人材候補を選任する予定です。
- 委員長は協会活動の中心として、分析系企業、ユーザ系企業、文教系企業、教育機関の各方面に依頼していく予定です。

 ※今後、候補者を選定する予定 ※詳細未定

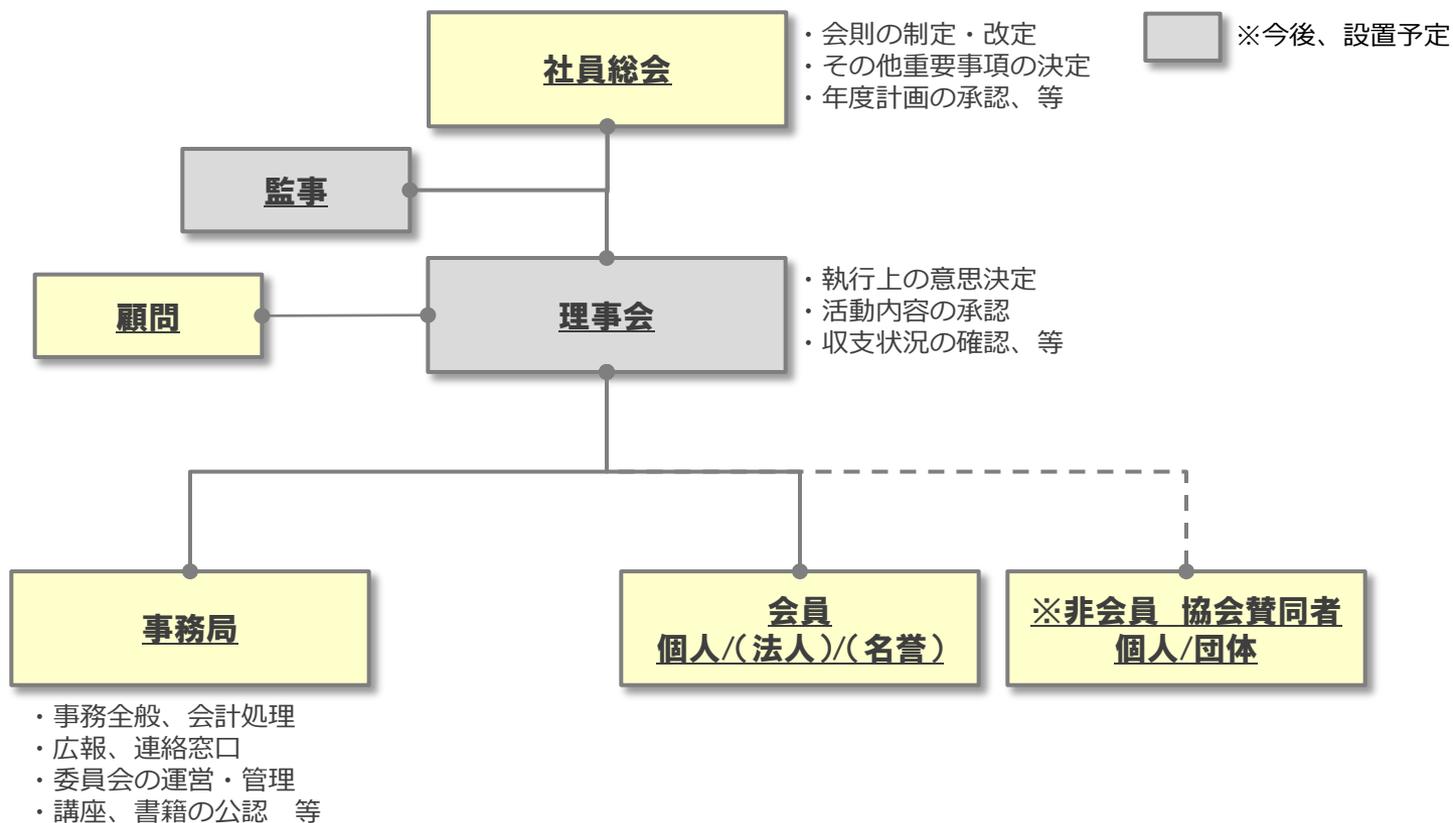
役職	所属/氏名（敬称略）
代表理事	株式会社ブレインパッド 代表取締役社長 草野 隆史
顧問	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長、総合研究大学院大学統計科学専攻 教授 樋口 知之
スキル定義委員長	分析系企業、もしくはユーザ系企業の方に依頼予定
教育・育成委員長	教育機関の方に依頼予定
評価・認定委員長	文教系企業の方に依頼予定
企画委員長	分析系企業、もしくはユーザ系企業の方に依頼予定
事務局長	株式会社ブレインパッド 経営企画室長 宍倉 剛
理事	未定
監事	未定

【重要】団体人事について（今後の組織構成の方向性）

- 当協会は、広くデータサイエンス領域の人材を育成することを目的としており、発起人の一社であるブレインパッドが協会活動から収益を得ることを目的とはしていません。
- 広く業界に貢献する存在意義を持つ団体であること、それを実現するための公正な組織統治・運営を早期に実現するために、以下の項目を基本的な活動指針として掲げて、設立当初より活動を行っていきます。
 - ✓ 出来る限り早い段階で、会員組織（構成員）を構成します。
 - ✓ 出来る限り早い段階で、理事選を実施し、新たな理事会を発足します。
 - ✓ 理事会の発足後、年度決算ならびに新たな組織活動指針を定めます。
 - ✓ 新たな組織体制下で、新たな事業計画を策定します。
- 各種定義の決定のプロセスはオープンに広く意見を集め、公共性・一般性の高いものを目指します。
- なお、一社単独で協会活動を始めるにあたって、諸々ご批判を頂戴することがあるかと存じますが、変化の激しくかつ、未成熟な当該領域において、企業間の調整などに腐心する必要がない運営体制を確立することが、迅速かつ公共性の高い活動の立ち上げを短期で実現できるものと信じております。

協会組織図（案）

- 当初は迅速な設立を優先し、社員総会を「意思決定機関」とする一般社団法人とします。
- その後、理事会・監事設置型の一般社団法人へと展開予定です。（理事3名以上・監事1名を想定）
- 団体の事務全般、運営管理（委員会活動含む）を目的として事務局を常設します。



運営委員会体制（案）

- 事務局の下に、活動内容に応じて、活動テーマを定めた各種委員会、研究部会を設置します。
- 各委員会の設立および、委員長の選出は社員総会/理事会にて決議します。
- 今後、必要に応じ、随時、テーマを定め、企画委員会の下に研究部会を設置していきます。

